

あろま

2010.2.7.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

1月例会 ハンドボールの授業報告

1月30日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック1月例会が開催されました。水本さんの4年生ハンドボールの授業の報告がありました。校内研の研究授業に向けて、指導案をどう書くか、授業をどのように行っていったらよいか等についても話し合われました。

水本さんのハンドボールの授業は

3年生のとき取り組んだ「タッチボール」

水本さんの担任している4年生の子どもたちは29人です。

3年生の時には「タッチボール」を学習してきました。「タッチボール」というのは、床に敷いたマットをゴールにして、ボールを運び、マットにボールをタッチすれば得点というゲームです。ボールは持って運んでよいのですが、ボールを持っている人が相手チームにタッチされると、そこでストップし、パスしなければいけません。

最初は上に投げ上げたボールが捕れなかったり、相手にパスが届かなかったり、パスされたボールをポロポロ落とすなどボール操作に慣れていない子どもたちでしたが、だれもがボールに触る機会が多く、パスが必然的に生まれ、シュート技術をあまり必要としないタッチボールによって、クラス全員がシュートを経験し、どの子ども楽しむことができたということでした。

「シュートを決めてみたい」の声に

4年生になった子どもたちに書いてもらったアンケートには、「シュートを決めてみたい」という記述が圧倒的だったということです。水本さんは「シュートボール」で「ゴールという広い空間いっぱいボールを投げ込み、シュートを決めてネットを揺らすという心地よさを、みんなが味わえるように取り組んでいきたい」と、この実践を始めたのです

こんな指導計画で(全10時間)

この日の例会では、指導案の検討も行われ、水本さんの全体の指導計画についても話し合われました。こんな指導計画になっています。

第一次 オリエンテーション(1時間)

ゲームの方法やルールがわかる

- ・チームづくり。
- ・ゲーム方法やはじめのルールを理解する。

- ・ゲーム記録の取り方を理解する。
- ・めあてを考える

第二次 ゲームオリエンテーション（2時間）

ボールを使った準備運動のしかたがわかる

- ・パス・キャッチ調査、パス遊び、シュート遊び、シュート調査

ゲームオリエンテーション

- ・3人対3人のゲーム。
- ・はじめのルールを理解する
- ・攻め方、守り方を理解する
- ・実際にゲームをしながら、ルールについて考える

ゲームオリエンテーション

- ・ゲームの中で、入りやすい場所をねらってシュートする。
- ・ゴールの守り方がわかる（ゴールキーパー）。

第三次 試し・確かめのリーグ戦（5時間）

- ・3人対3人のゲーム
- ・作戦づくり
- ・ワンマンプレーからコンビネーションへ
- ・居残り作戦
- ・たてパス速攻
- ・ゴール前での横パス作戦
- ・マークはずし

第四次 まとめのトーナメント戦（2時間）

学習カードとめあてカードの工夫

学習カードは、その日どんな練習をするのか、ゲームではどのような作戦を使うのか、ゲームの記録（心電図）、ゲームの結果、感想（うまくできたところ、友だちのこと、次の課題など）が一枚にまとめられた、見やすく使いやすいものになっています。またそこには「話し合いカード」と名づけられた、話し合いのしかたを具体的に書いたものも載っています。

めあてカードは、その日そのチームがどのような作戦で、どのようなコンビネーションプレーをするかに基づいて、チームのめあてや個人のめあてを、グループで話し合っけて記入できるためのカードです。試合前や試合後に、うまくいったところ、うまくいかなかったところを話し合うようにしているのだそうです。

授業のビデオを見て

授業を撮ったビデオも見ました。水本さん自身も言っていたように、子どもたちはとても上手になっていました。動きがすばやく、どう動いてパスをもらうのかもよく理解しているようでした。子どもたちどうしの指示の声かけもよくできていたように思います。

水本さんの研究授業の日は、2月10日（水）5校時です。

参加された方の感想から

とても勉強になりました。言葉を豊かにし、つながり合う、ボール技術の獲得を軸に教え合う、そのためには、技のすじ道、伝え合う言葉をしっかり子どもたちが持つこと、その大切さがわかりました。自分の想いを言葉におきかえる。そのために、子どもたちの豊かさをどう育てる必要があるのか、生活づくり全般からも考えてみたいで
す。(Aさん)

水本さんのいつもながらのていねいな実践と、子どもたちがとてもうまくなっているようすがビデオからもよくわかりました。

ひとりひとりのめあてが、チームの作戦に基づくコンビネーションプレーとの関連で決まってくるということがよくわかりました。

ハンドボールのセットオフENSについて、もっとよく知りたいと思いました。(Cさん)

提案させていただくと本当に勉強になりました。体育科の指導案の書き方、久しぶりにより勉強をさせていただきました。

課題となったコート
の広さ、確かめてみたいと思います。(Eさん)

自分の姿を客観的に見ることで、自分の行動の反省や、次の作戦を立てることができるので、ビデオを撮ることができたらいいと思った。

球技でも、今まで個人個人のめあてをもって取り組ませてきたが、そのめあては、コンビネーションのための個人技術になっていなくてはいけないことを学んだ。

ここまで考えて授業づくりができたら...と、反省です。

(Bさん)

和田先生の認識調査と分析から

バスケのゴール前での動き方の説明から、プレイヤーのボール操作、位置どりなどのコメントをとり、それをデータ化してみるの
は、興味深かった。子どもたちが示した結果から(考え方から)傾向をつかみ(2:0やカットイン)それを中心に系統性のある指導に生かしていくという視点は、「ナルホド」と思った。

水本先生の授業(案)から

- ・コンビネーションとの関係から班や個人のめあてを引き出すことが大切なんだなあと
思った。
- ・指導の工夫にもたくさんの視点(配慮していること)があって、それも勉強になった。

(Dさん)

水本指導案の検討

- ・コートづくりの根拠
- ・攻めの基本

それと他の球技との関係(発展性)

ハンドボールの魅力について考えることができた。(Fさん)

